

受益者のみなさまへ

毎々格別のお引き立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

さて、ご投資いただいております『グローバルドライブ（3ヵ月決算型）限定為替ヘッジ』は、2016年2月18日に第8期決算を行いました。

当ファンドは、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。実質外貨建資産については、原則として米ドル売り／円買いの為替取引を行います。当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに第7期から第8期までの運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

第8期末（2016年2月18日）	
基準価額	9,099円
純資産総額	909百万円
第7期～第8期	
騰落率	△8.8%
分配金（税込み）合計	0円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。右記ホームページの「基準価額一覧」などから当ファンドのファンド名称を選択することにより、ファンド詳細ページにおいて運用報告書（全体版）を閲覧およびダウンロードすることができます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

グローバルドライブ （3ヵ月決算型） 限定為替ヘッジ

追加型投信／内外／資産複合

【交付運用報告書】

作成対象期間（2015年8月19日～2016年2月18日）

第7期（決算日2015年11月18日）

第8期（決算日2016年2月18日）

新光投信株式会社

東京都中央区日本橋1丁目17番10号

<http://www.shinkotoushin.co.jp/>

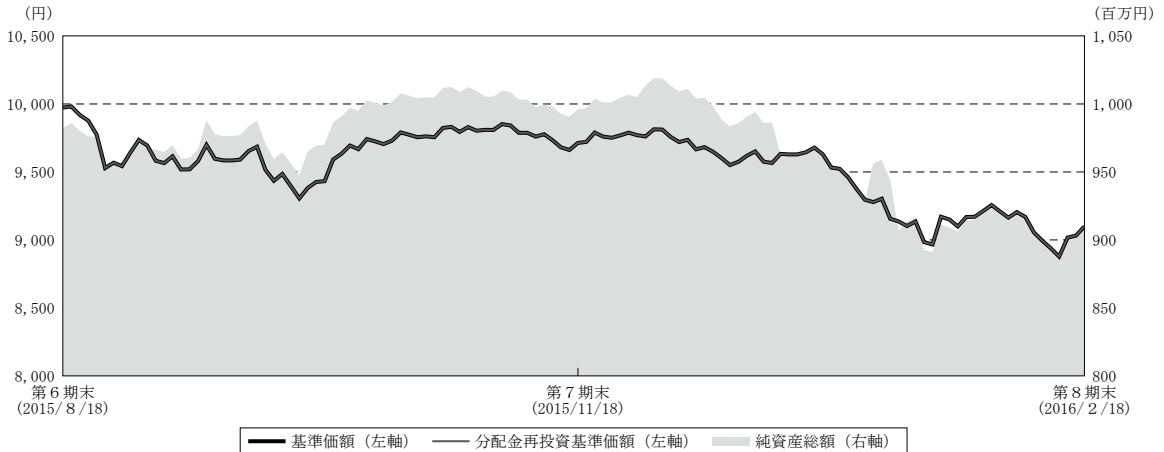
当運用報告書の内容についてのお問い合わせ先
ヘルプデスク 0120-104-694（フリーダイヤル）
受付時間は営業日の午前9時～午後5時です。

(18548-9916)

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

（2015年8月19日～2016年2月18日）



第7期首：9,973円
 第8期末：9,099円（既払分配金：0円）
 騰落率：△8.8%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、2015年8月18日の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。

○基準価額の主な変動要因

グローバルドライブ・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX」（以下、「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券に実質的な投資を行います。また、補助的な位置付けとして、短期米ドル建債券などを主要投資対象とする上場投資信託証券（以下、「短期米ドル債ETF」といいます。）にも、マザーファンドを通じて実質的な投資を行います。また、実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。

第7期首9,973円でスタートした基準価額は、2015年9月30日に9,306円となりました。その後、11月5日に9,851円まで回復しましたが、アロケーション・ファンドの価格下落に伴い基準価額は再び下落し、第8期末の基準価額は9,099円となりました。

当作成期間においてはアロケーション・ファンドの価格が分配金込みで7.8%下落したことや、米ドル／円相場が8.4%の円高ドル安となったことにより、マザーファンドは15.5%下落しました。しかし当ファンドで行った米ドル売り／円買いの為替取引がプラスに寄与したことなどから、当ファンドの基準価額は8.8%の下落にとどまりました。

1万口当たりの費用明細

(2015年8月19日～2016年2月18日)

項目	第7期～第8期		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	98円	1.021%	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率× $\frac{\text{経過日数}}{365}$
(投信会社)	(60)	(0.624)	委託した資金の運用、基準価額の算出などの対価
(販売会社)	(36)	(0.380)	購入後の情報提供、運用報告書など各種書類の送付、分配金・償還金・換金代金支払などの事務手続きなどの対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行などの対価
(b) その他費用	0	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保管費用)	(0)	(0.001)	保管費用は、海外における保管銀行などに支払う有価証券などの保管および資金の送金・資産の移転などに要する費用
(監査費用)	(0)	(0.004)	監査費用は、監査法人などに支払うファンドの監査に係る費用
合計	98	1.026	
作成期間の平均基準価額は、9,577円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

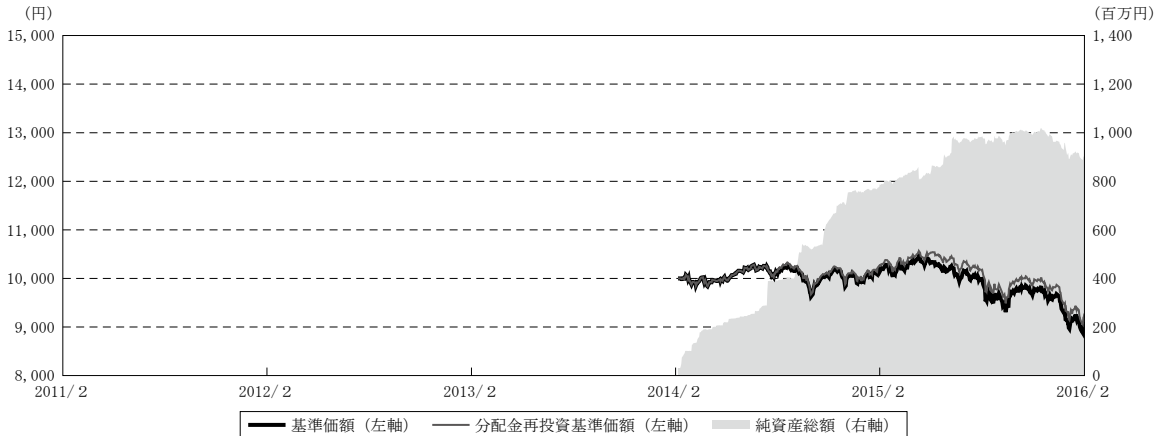
(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入してあります。

最近5年間の基準価額等の推移

（2011年2月18日～2016年2月18日）



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、設定日（2014年2月24日）の値が基準価額と同一となるように指数化してあります。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示してあります。

	2014年2月24日 設定日	2015年2月18日 決算日	2016年2月18日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,162	9,099
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	100	100
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	2.6	△9.6
純資産総額 (百万円)	31	784	909

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。
- (注) 純資産総額の単位未満は切り捨てて表示してあります。
- (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2015年2月18日の騰落率は設定当初との比較です。
- (注) マザーファンドへの投資を通じて、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。よって、ベンチマーク等は設定しておりません。

投資環境

(2015年8月19日～2016年2月18日)

○米国株式市場

米国株式市場は、人民元切り下げをきっかけに中国の景気減速懸念が強まるなか、9月末にかけて下落基調をたどりました。その後は欧米および中国の金融政策への期待から持ち直す展開となりました。しかし、12月初旬のOPEC（石油輸出国機構）総会で減産が見送られ、原油安が深刻なものとなるなか、産油国の景気減速によるオイルマネーの流出や、エネルギー企業の業績悪化などへの懸念などから、米国株式市場は再び下落基調に転じました。年明け以降も中国経済や原油安を巡る混乱が続いたほか、米国の一部経済指標にも息切れの兆しが見られたことなどから、米国株式市場の下落が加速する展開となりました。

この結果、第8期末における米国株式市場は第7期首に比べて下落となりました。

○欧州株式市場

欧州株式市場は、中国経済の減速懸念のほか、独大手自動車メーカーの排ガス不正操作問題を受け、9月末にかけて軟調な値動きとなりました。その後は、ECB（欧州中央銀行）の追加金融緩和への期待が膨らむなか、米ドルや円に対してユーロ安が進行したため、欧州株式市場は持ち直す展開となりました。しかし、ECBの追加金融緩和が期待外れな内容となったことや、原油安および中東情勢の緊迫化への懸念、欧州の金融システムに対する警戒感などを背景に、12月以降は下落基調が続きました。

この結果、第8期末における欧州株式市場は第7期首に比べて下落となりました。

○国内株式市場

国内株式市場は、中国経済の減速懸念とともに円高ドル安が進行したため、8月後半から9月にかけて大幅な下落に見舞われました。その後は、主要国の金融政策に対する安心感からリスクをとる動きが広がり、国内株式市場は円安ドル高の進行に歩調を合わせる形で値を戻す展開となりました。しかし12月以降は、日銀による金融緩和の補完策が現行の金融政策の限界を示すものと受け止められたほか、中国経済および原油安を巡る不安感から円高ドル安となり、国内株式市場は再び下落基調をたどりました。頼みの米国経済に一部息切れの兆しが見られたことやFRBの追加利上げ観測が後退したことも円高・株安トレンドに拍車をかける展開となりました。途中、1月末の日銀のマイナス金利導入で円安ドル高となり、株価も上昇する場面がありましたが、一時的なものにとどまりました。

この結果、第8期末における国内株式市場は第7期首に比べて下落となりました。

○米国債券市場

米国債券市場では、中国経済の先行き警戒感のほか、米国の利上げや資源安に伴う高リスク資産からの投資資金の流出懸念、中東における地政学リスクなどの要因が絡み合うなか、安全資産としての底堅い需要が、米国10年国債利回りの上昇（価格の下落）を抑える要因となりました。年明け後は、上海株式市場の急落や人民元安、原油価格の下落などを背景に米国内外の株式市場が混乱したほか、FRBによる追加利上げ観測が後退したことなどから、米国10年国債利回りは一気に低下（価格は上昇）する展開となりました。なお、FRBは12月に利上げを決定しましたが、市場が概ね織り込み済みであったことなどから、影響は限定的なものとなりました。

こうした状況のもと、第7期首2.1%台であった米国10年国債利回りは低下（価格は上昇）し、第8期末には1.8%台となりました。

○欧州債券市場

欧州債券市場では、資源価格下落や中国の景気減速懸念、独大手自動車メーカーの排ガス不正操作問題などを背景にユーロ圏の各国国債利回りは低下（価格は上昇）基調をたどりしました。ECBによる追加金融緩和観測やフランスの同時テロ事件も利回り低下（価格の上昇）要因となりました。その後、12月のECBによる追加金融緩和が期待に届かなかったことで、各国国債の利回りは幾分上昇（価格は下落）しました。年明け後は、世界経済の減速や欧州の金融システムへの警戒感が高まるなか、信用力の高いドイツの国債利回りが低下（価格は上昇）する一方、財政不安を抱えるポルトガルの国債利回りが上昇（価格は下落）するなど、各国国債利回りはまちまちの展開となりました。

こうした状況のもと、ドイツ10年国債利回りは第7期首の0.6%台から第8期末の0.2%台へ、フランス10年国債利回りは第7期首の0.9%台から第8期末の0.6%台へ、それぞれ低下（価格は上昇）しました。イタリアやスペインなど南欧諸国の国債利回りは2015年末までは概ね同様の展開となりましたが、財政再建への懸念などから、年明け以降は横ばいあるいは上昇（価格は下落）となりました。

○外国為替市場

第7期首1ドル＝124円台半ばでスタートした米ドル／円相場は、中国の景気減速や出口の見えない原油安などを背景に世界経済の減速懸念が高まるなか、円高ドル安に振れやすい展開となりました。12月の日銀による金融緩和の補完策もかえって日銀の手詰まり感を示すものと受け止められ、外国為替市場は円高ドル安で反応しました。年明け後も、中国経済や原油安などを巡って国内外の金融市場が大荒れとなり、円高ドル安の流れとなりました。1月末の日銀のマイナス金利導入に反応して円安ドル高となる場面もありましたが、イエレンFRB議長が利上げペースの減速を示唆したため再び円高ドル安が加速し、米ドル／円相場は1ドル＝114円程度で第8期末を迎えました。

ポートフォリオについて

（2015年8月19日～2016年2月18日）

○当ファンド

マザーファンドへの投資を通じてアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、第8期末の実質組入比率を96.1%としました。また、マザーファンドを通じた短期米ドル債ETFの実質組入比率を第8期末時点で0.3%としました。また、米ドル売り／円買いの為替取引を行い、米ドル／円相場の変動による影響の軽減を図りました。その結果、第7期首9,973円でスタートした基準価額は、9,099円で第8期末を迎えました。

○グローバルドライブ・マザーファンド

主としてアロケーション・ファンドに投資を行います。また、補助的な位置付けとして、短期米ドル債ETFにも投資を行います。なお、外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて為替ヘッジを行いません。

アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、2016年2月18日時点で98.7%としました。また、短期米ドル債ETFの組入比率を同時点で0.3%としました。その結果、2015年8月18日に12,699円であった基準価額は、2016年2月18日に10,732円となりました。

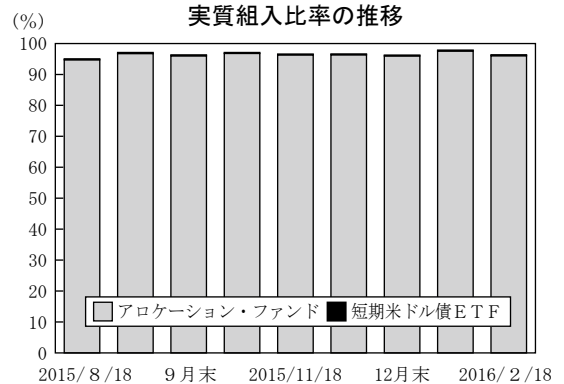
＜アロケーション・ファンドの運用状況（2015年7月末～2016年1月末）＞

世界各国のさまざまな資産（株式、債券など）、国・地域、セクターなどから、投資魅力度が高いと判断される資産に分散投資を行いました。また、中長期的なトータルリターンの最大化を目指すため、投資環境に応じて株式や債券などの組入比率を機動的に変更しました。

2015年7月末と2016年1月末の比較では、株式については、地域別で見ると米国株の組入比率が大幅に上昇した一方、日本株、欧州株、豪州を含むアジア株、中南米株はいずれも低下となりました。欧州のなかではフランスやドイツの組入比率が、アジアでは中国や台湾が相対的に大きな低下となりました。こうした動きの結果、2016年1月末の株式全体の組入比率は59.4%程度となり、2015年7月末よりも1.8%程度の上昇となっています。前述のとおり米国株の組入比率はこの半年間で上昇しましたが、米国株の組入比率の水準自体は引き続き抑え目となっています。また、前述のとおり日本株の組入比率はこの半年間で低下しましたが、日本株の組入比率の水準自体は引き続き積極的なものとなっています。セクター別では、ヘルスケア、エネルギー、通信、素材を積極的に組み入れています。

債券については、米国債券の組入比率が比較的大きく上昇したほか、欧州債券の組入比率も上昇となりました。ただし債券全体の組入比率としては抑え目のポジションを維持しています。米国以外ではハンガリーの組入比率上昇、ブラジルの組入比率低下が相対的に大きなものとなりました。こうした動きの結果、2016年1月末の組入比率は21.6%程度となり、2015年7月末よりも4.4%程度の上昇となりました。日米欧の先進国の組入比率は抑え目を維持しています。また、前述のとおりブラジルの組入比率はこの半年間で低下しましたが、メキシコやアルゼンチンなどを加えた中南米の組入比率の水準自体は依然として積極的なものとなっています。さらには、非ユーロ圏諸国であるハンガリー、ポーランドの債券も選好しています。

コモディティの組入比率については当作成期間を通じてあまり変わらず、2016年1月末時点で1.3%程度となりました。



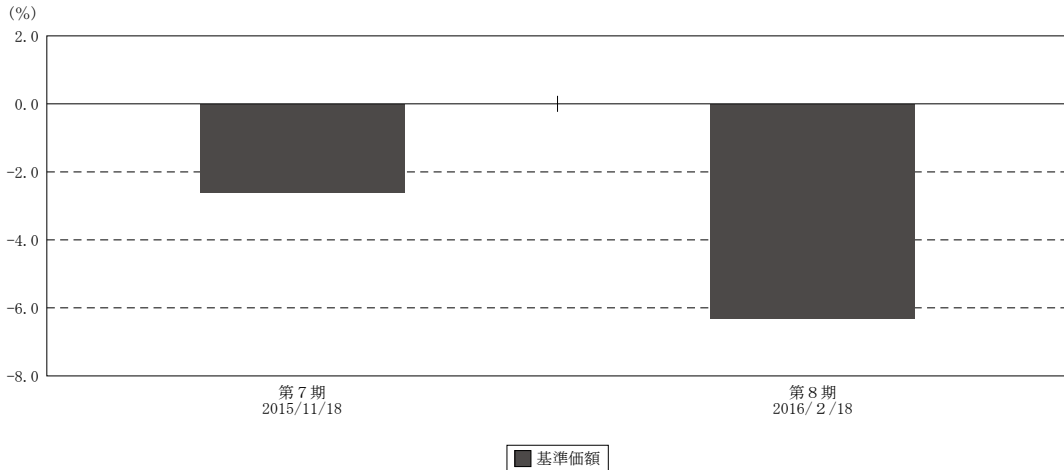
※比率は、当ファンドの純資産総額に対する割合。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2015年8月19日～2016年2月18日）

マザーファンドへの投資を通じて、世界各国のさまざまな資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得による投資信託財産の成長を目指して運用を行うという、当ファンドのコンセプトに適した指数等がございません。したがって、ベンチマークは設定しておりません。グラフは基準価額の騰落率です。

基準価額（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

分配金

（2015年8月19日～2016年2月18日）

収益分配につきましては、基準価額水準や市況動向などを勘案し、第7期、第8期ともに分配を見送りました。留保益の運用については特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。

○分配原資の内訳（単位：円、1万口当たり、税込み）

項目	第7期	第8期
	2015年8月19日 ～2015年11月18日	2015年11月19日 ～2016年2月18日
当期分配金	—	—
（対基準価額比率）	—%	—%
当期の収益	—	—
当期の収益以外	—	—
翌期繰越分配対象額	384	384

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切り捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

○当ファンド

引き続きマザーファンドを通じたアロケーション・ファンドの実質組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

また、ヘッジ比率を高位に維持し、米ドル建て資産に対する為替変動リスクを軽減するよう調整します。

○グローバルドライブ・マザーファンド

引き続き、アロケーション・ファンドの組入比率を高位に維持し、世界各国の株式や債券などさまざまな資産への分散投資で得られる収益の獲得を目指します。

お知らせ

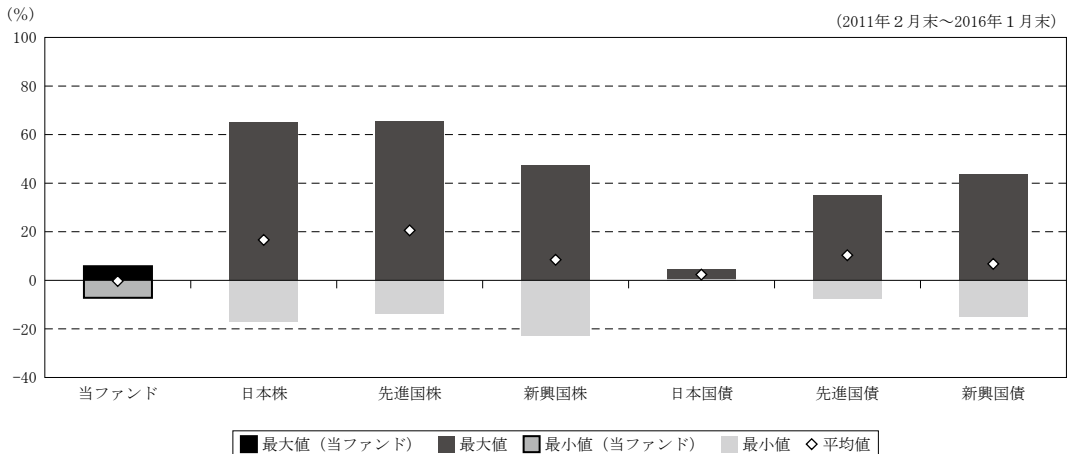
該当事項はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	2014年2月24日から2024年2月19日まで。	
運用方針	投資信託財産の成長を目指して運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	グローバルドライブ・マザーファンド受益証券。
	グローバルドライブ・マザーファンド	投資信託証券。
運用方法	グローバルドライブ・マザーファンドへの投資を通じて、主としてブラックロック・グローバル・ファンズ・グローバル・アロケーション・ファンドークラスX（以下「アロケーション・ファンド」といいます。）米ドル建投資証券に実質的な投資を行い、世界各国の様々な資産への分散投資と為替取引で得られる収益の獲得を目指します。加えて、短期米ドル建債券等を主要投資対象とする上場投資信託証券にも、実質的な投資を行います。アロケーション・ファンドの実質組入比率は、原則として高位とすることを基本とします。実質外貨建資産については、原則として当ファンドにおいて米ドル売り／円買いの為替取引を行います。	
分配方針	分配対象額の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、基準価額水準や市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合などには、分配を行わないことがあります。留保益の運用については、特に制限を設けず、運用の基本方針に基づいた運用を行います。	

（参考情報）

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



（単位：％）

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	5.8	65.0	65.7	47.4	4.5	34.9	43.7
最小値	△7.2	△17.0	△13.6	△22.8	0.4	△7.5	△15.0
平均値	△0.3	16.6	20.5	8.4	2.3	10.3	6.7

（注）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注）2011年2月から2016年1月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは、2015年2月以降の年間騰落率を用いています。

（注）上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックスーエマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド（円ベース）

※各指数についての説明は、P15の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

（注）海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算してあります。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年2月18日現在)

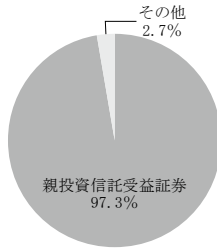
○組入上位ファンド

銘柄名	第8期末
グローバルドライブ・マザーファンド	97.3%
組入銘柄数	1銘柄

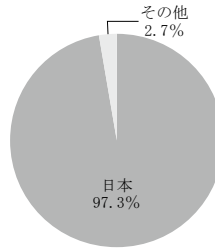
(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

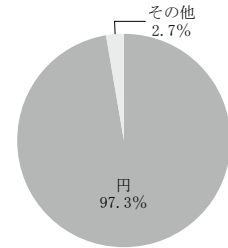
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

純資産等

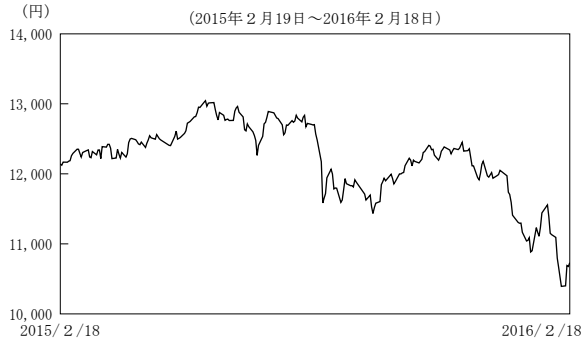
項目	第7期末	第8期末
	2015年11月18日	2016年2月18日
純資産総額	996,125,512円	909,165,559円
受益権総口数	1,025,596,665口	999,220,570口
1万口当たり基準価額	9,713円	9,099円

* 当作成期間（第7期～第8期）中における追加設定元本額は123,787,960円、同解約元本額は109,404,831円です。

組入上位ファンドの概要

グローバルドライブ・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2015年2月19日～2016年2月18日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (投資信託証券)	0円 (0)	0.000% (0.000)
(b) その他費用 (保管費用) (その他)	0 (0) (0)	0.002 (0.002) (0.000)
合計	0	0.002

期中の平均基準価額は、12,244円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位を四捨五入して表示してあります。

【組入上位10銘柄】

(2016年2月18日現在)

	銘柄名	業種／種類別	通貨	国（地域）	比率
1	ISHARES SHORT TREASURY BOND ETF	投資証券	米ドル	アメリカ	0.3%
2	—	—	—	—	—
3	—	—	—	—	—
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			1銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。

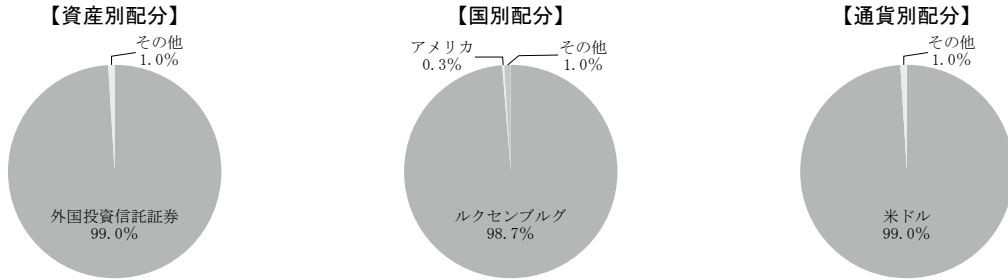
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

【組入上位ファンド】

銘柄名	当期
ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX米ドル建投資証券	98.7%
組入銘柄数	1銘柄

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載してあります。



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。

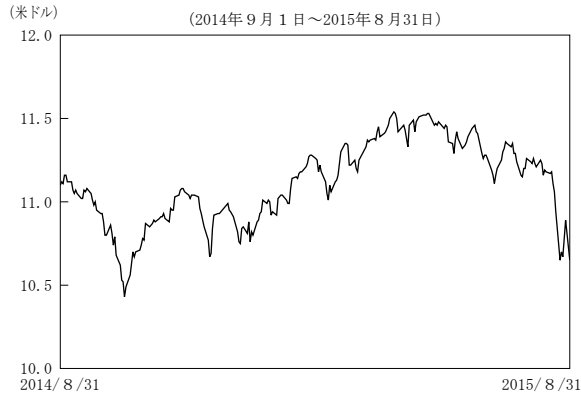
(注) その他は、純資産総額から有価証券等を差し引いた数字です。

(注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。

—— <ご参考> ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX米ドル建投資証券 ——

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年9月1日～2015年8月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については、開示してないため掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2015年8月31日現在)

	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	通貨	比率
					%
1	UK CONV GILT REGS 2.25 09/07/2023	国債	イギリス	英ポンド	1.3
2	TREASURY NOTE 2.25 11/15/2024	国債	アメリカ	米ドル	1.2
3	TREASURY NOTE 1.375 03/31/2020	国債	アメリカ	米ドル	1.2
4	TREASURY NOTE (OLD) 2.125 05/15/2025	国債	アメリカ	米ドル	0.8
5	MEXICO (UNITED MEXICAN STATES) 10 12/05/2024	国債	メキシコ	メキシコペソ	0.8
6	GOOGLE	情報技術	アメリカ	米ドル	0.7
7	JPMORGAN CHASE	金融	アメリカ	米ドル	0.6
8	APPLE	情報技術	アメリカ	米ドル	0.6
9	PROCTER & GAMBLE	生活必需品	アメリカ	米ドル	0.6
10	VERIZON	電気通信サービス	アメリカ	米ドル	0.5
組入銘柄数		764銘柄			

(注) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。

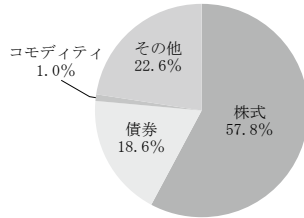
(注) 「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。

(注) 組入有価証券に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

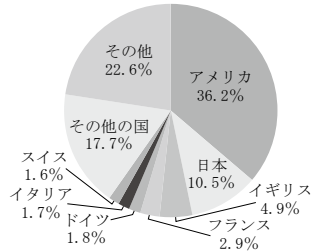
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 上記の表は、ブラックロックのデータをもとに記載しております。

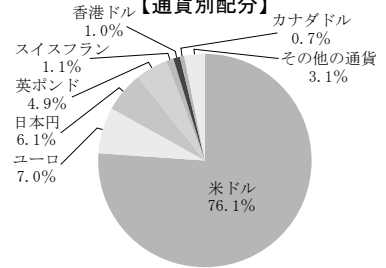
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



- (注) 比率は、ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドの純資産総額に対する割合です。
- (注) 「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンドークラスX」は、「ブラックロック・グローバル・ファンズーグローバル・アロケーション・ファンド」の個別クラスとなっております。
- (注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示してあります。
- (注) その他は、純資産総額から有価証券を差し引いた数字です。
- (注) 比率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示してあります。なお、合計は、四捨五入の関係で合わない場合があります。
- (注) 上記のグラフは、ブラックロックのデータをもとに記載してあります。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

○東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI — KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI — KOKUSAI インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

○NOMURA — BPI国債

NOMURA — BPI国債は、野村証券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA — BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村証券株式会社に帰属します。

○シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

シティ世界国債インデックス（除く日本、円ベース）は、Citigroup Index LLCが開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLCに帰属します。

○JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス—エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）

JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス — エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円ベース）は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス — エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

本指数は、信頼性が高いとみなす情報に基づき作成していますが、J.P. Morganはその完全性・正確性を保証するものではありません。本指数は許諾を受けて使用しています。J.P. Morganからの書面による事前承認なしに本指数を複製・使用・頒布することは認められていません。Copyright 2014, J.P. Morgan Chase & Co. All rights reserved.